

学校法人 大阪滋慶学園 大阪医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による評価

【令和5年6月1日実施】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	
1 教育理念・目的・育人人材像	1-1-1 理念・目的・育人人材像は、定められているか	4	実学教育・人間教育・国際教育を実践し、時代の要請に対応した人材育成を通して、学生・保護者・高等学校・業界・地域からの信頼を得ることを建学の理念とすることを便覧に明記している。育人人材像はデュプロマポリシーとして同じく便覧に明記している。(学生便覧P5)	特になし	4	・「実学教育」「人間教育」「国際教育」という理念に基づき設定、取り組まれている
	1-1-2 育人人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4	新カリキュラム改正の方向性と、従来の業界との連携から得た意見を踏まえて育人人材像を定めた。概要は、人間教育では豊かな人間性と倫理観を幹として、主体性、人間関係構築力・協働性を育成し、看護専門性においては、臨床判断能力・基礎的な看護実践力を有する人とした。更にグローバル化の進んだ国際社会において国際的な視野に立った柔軟な理解力を培うこととした。	特になし。		
	1-1-3 理念等の達成に向け、特色のある教育活動に取り組んでいるか	4	学園では、入学式を最初の授業、卒業式を最後の授業として各種儀礼・行事を理念に基づく人材育成の機会と位置付けている。特別教育活動の教育目的・内容は便覧に明記している(学生便覧P20)。また、学園のスケールメリットを活用し、多職種連携教育・海外研修・卒業前教育を実施している。	コロナ禍では海外への渡航が出来なかったため、海外提携校・教授の講義をオンラインで受講し、更に海外提携校・看護学生とのディスカッションを行った。		
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱えているか	4	看護には普遍的な基本的姿勢がある。しかしながら時代の変遷・環境の変化と共に看護を取り巻く環境は変化し、その内容は看護師としての働き方に影響する。新カリキュラム作成においては、2031年を見据えて協働とICT活用を踏まえた人材育成を目指した。	人間教育の強化、教材のICT化の推進。		
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4	理念に沿った法人の運営方針をもとに、本校の運営方針を定めており、事業計画と併せて会議や研修にて教職員への周知の徹底を図っている。また教務会、教職員会議を月1回以上実施し、学校・学科運営が常に運営方針に沿っているかの検証にも努めている。	学園グループの建学の理念に基づき、看護師養成校として毎年学校目標を策定し教育活動を推進している。	4	・適正に運営がなされている
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画は定めているか	4	年度当初に法人および本校の事業計画の概要を発表し、教職員への周知徹底を図っている。組織目的達成のために長期・中期・短期の定性目標と定量目標を定め、会議や研修等を通じて目標を達成するという共通の意識を教職員全員に促し、各人の行動力の喚起に注力している。実際の運営の検証・指導・支援体制も設け、計画遂行状況の確認、問題点の早期発見と対策等、業務改善するプロセスも確立している。	法人の5ヶ年計画に基づき各年度の内容を明確に示されている。本校の事業計画について各人がよく理解し、その計画を遂行していく中で教職員各々のリーダーシップが発揮され、職場の運営や人材育成がなされていくと考えている。その為にも、教職員の育成、成長が常に重要である。人材育成と共に、事業計画に基づいた学校運営に力を入れていきたい。		
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行なっているか	4	法令に則り、理事会、評議委員会が開催され、法人の運営状況を確認、検証している。本学園の幹部会議では法人内の各学校の管理・運営状況を確認・情報を共有し、リスクに関して、速やかに対応ができるような体制になっている。	特になし。		
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	4	組織図に基づいて、適切な運営ができていのかどうか学内の管理運営会議等で確認・検証し、教務会や教職員会議を通じて、教職員へ報告・連絡、情報の共有を図っている。	会議の決定事項の理解と実行度に部署や個人差が生じないよう個別にフォローをしている。教務部と事務局の連携業務について、取り組む目的やスケジュール、役割分担等を明確にすると共に、その活動に関わる者が可視化できる共通フォームの使用と合同研修会を催すように努める。		
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	4	就業規則では、総則において教職員の等級を定められている。採用や任免、給与、教育訓練等についても明記され、給与や退職金については給与規定、教職員退職規定等、詳細に定められている。就業規則の検証も法人の会議内で毎年行なっている。学内においては、事業計画書の「人事計画(採用・研修)」に示され、この計画に基づいて年間の採用・研修が実施される。また、業績評価システムについても明記され、人事考課の基本方針となっている。	学園グループ全校で人事データ、および勤怠システムが電子化されている。人事データ/バンクシステムは、教職員の人事情報やキャリア情報等のタイムリーな把握・集約を行うと共に人材と組織の活性化を図るものである。また、勤怠システムは働き方改革や社会から求められる適正な勤怠管理を徹底し、教職員が健康で楽しく働き、そして幸せ生活をする事を目指して取り組んでいる。		
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	4	会議規程を基に、事業計画に意思決定システムとして、各種会議やミーティング、委員会を明記している。総学生数が240名程度の小規模の学校であるので、学校長を柱として副学校長、学科長、事務局次長が常に連携しながら運営にあたっている。	特になし。		
	2-7-1 情報システム化に取り組み、業務の効率化が図れているか	4	創立以来、業務システムで情報を一元管理しており、業務の効率化が図られている。情報の入力、閲覧、出力の全てにおいて個人IDで制限が掛けられ、リスクマネジメントも十分である。WEBシステムを導入し、業務の効率化とセキュリティー対策を行っている。教職員全員が毎年IT・リテラシーのテストを受けている。JPAC(一般社団法人日本プライバシー認証機構)の研修を受け、ネット上の個人情報漏洩や流出防止のための業務の在り方等についても資質向上を図っている。	各教職員へのパソコンの貸与と共に定期的なメンテナンスを行っている。また、IT・リテラシーの周知徹底とパソコン内の共有データの整理や集約を定期的に行い、安定した情報システムの管理を行っている。		

学校法人 大阪滋慶学園 大阪医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による評価

【令和5年6月1日実施】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括		委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等	課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)		
3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	各法令に基づき、建学の理念に沿った教育課程を編成し、実施方針についてはカリキュラムポリシー明記している。(学生便覧P5参照)	特になし	4	<p>・3-11-2の取り組みは大変素晴らしい この点をもっとアピールして、資格取得、進級など学力保障にも万全の体制のある学校であると、高校や保護者、生徒に認知されれば、志願者も増えるのではないだろうか</p> <p>・人間形成に重きを置き、態度評価を具体的な内言として用い、教育成果を上げることに努められている 学生、保護者に定期的、適時に教育計画、到達度を説明し、入学者全員が、卒業にむかって、また国家試験合格にむかっていけるよう丁寧に関わっている</p> <p>・人間力の強化、素晴らしい 3-12-1 実習における教員の方は、学生に向き合った適切な指導をされている</p> <p>・(新卒の)社会人基礎力が今までに比べるとコロナ禍で足りないように感じている(アルバイトができないなどの影響)態度面は学生の内からちゃんと評価してもらおうのは良いと思う</p>
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4	各学年の学年到達目標を定めている。(学生便覧P12参照)	各学年の到達目標に沿って年間教育計画を立案し、年度はじめに学生・保護者に提示している。		
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	カリキュラム改正に伴いディプロマポリシーに基づき教育課程を再編成した。	カリキュラム改正に伴い、臨床判断能力の強化のために各領域で体験型学習を導入した。また、姉妹校と連携して多職種協働学習を実施している。		
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	4	就職先や学外実習先、海外研修実務提携校、学生出身校、講師からの意見を反映している。また、各学年で年1回の保護者会を実施し保護者と連携しながら教育している。	特になし		
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	4	キャリア教育に対する学園としての考え方やフレームを「キャリア教育ロードマップ」として作成し、取り組んでいる。	学園主催の就職フェア、実習施設説明会や、多様な場で働く看護職による講義により、具体的なキャリアを描ける機会としている。また、学園として式典を授業の一環と位置付けており入学式では学び方、卒業式では社会に出てからの働き方についてプレゼンテーションを行い、キャリア教育につなげている。		
	3-9-4 授業評価を実施しているか	4	担当教員ごとに授業評価を行い、教員にフィードバックし授業改善に活用している。	講義は「授業への意欲・積極性」、「予習・復習時間」、「授業理解度」、「講師の教授法」、「教材教具の活用」の5つの視点で評価している。実習評価は令和5年度より、ルーブリック評価を導入しより具体的な内容とした。		
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	学則、履修規程に明記している。(学生便覧P22～31参照)	特になし。		
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	4	1年次には基礎実習のまとめ、2年次にはケーススタディ、3年次には調査研究に関する看護研究発表会を開催し、学びの成果を共有している。 令和5年1月に13期生(当時1年)全員が全国看護学生作文コンクールに応募した。	平成27年度より、本校独自の看護研究発表会を開催しているが、令和4年度より日刊工業新聞社や系列校の副学校長に聴講頂き、外部評価を取りいれている。 「第14回全国看護学生作文コンクール」2200作品を超える応募の中で13期生の長田 真歩さんが最優秀賞を受賞。		
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置付けているか	4	実学教育は看護師として必要とされる知識・技術・態度を修得することで到達できていると考える。	特になし。		
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	4	学内に国家試験対策委員会を設け、3年間のフローで国家試験対策を計画している。低学年から学習習慣の習得と低学力者への学習支援を実施し資格取得体制を整備している。	1, 2年生 希望者(低学力者)課外で学力強化のための指導を実施している。(1～2回/週)		
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインの要件を満たしている教員を確保している。				
3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか	4	専任教員のFDは本学園全体の教員研修や学会等の機会を通じて行っている。他の教員の演習に参加し自己の教育指導力の強化につながっている。				
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	4	学校長を教育の統括責任者として、現場の統括については副学校長・事務局次長が担い、学科長を中心とした教員組織の運営体制を敷いている。部署連携については、学校運営会議や教務会、各委員会会議を通じて連携を図っている。	管理職者による運営会議を3か月に1回、教務会及び各学年会議を月に1回定例実施している。運営会議と教務会議には事務局次長も参加し教務と事務の情報共有を図っている。			

学校法人 大阪滋慶学園 大阪医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による評価

【令和5年6月1日実施】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	
4 学 修 成 果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	4	就職率100%を継続達成している。2年次より法人主催の就職フェア等の参加を通じて、社会人基礎力を培うと共に就業意欲を向上させる取り組みを行い、病院見学・インターシップへの参加を促し採用試験の早期化に対応している。また、卒業生による自己の経験を基にした就職指導を導入。実際の求職活動に際しては、副学校長を中心に就職対策指導(マッチング・資料閲覧・文書指導・面接対策等)を行っている。	今年度は40名以上の学生が4月末までに第一志望で内定している。	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3の教育活動に同じく、4-14-1についてももっとアピール(数値において)して全卒業生の資格取得率がほぼ100%であるということを知ってもらいたいと思う。「フォロープログラム」は貴学の丁寧な学修サポートとして大いにアピールしてよいと思う</li> <li>・卒業生への関わりは社会問題でもあるが、限られた人材であるため今後の対策の検討が必要である</li> <li>・向上、努力が見られる</li> <li>・4-15-1 実習担当の先生が、現場で働いている卒業生に積極的に会いに行かれると、卒業生も喜ぶと思う</li> </ul>
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	3	定期的に模擬試験や対策講義を実施し、習熟度別に個別対策等を進めた。試験の結果は以下の通りである。 【本校】 合格率:95.9% (73名中70名) 【全国】 合格率:90.8% ※(現役生の合格率:95.5%)	本校は、学生全員の受験を原則としている。国家試験対策として、国家試験対策センターによるグループ校合同模試 姉妹校看護学科との合同対策会議を定期的実施し、学園として合格率100%を目指す。低学力者を対象としたグループ教育や個別指導を強化している。不合格者についてはフォロープログラムを作成し実践している。全卒業生の看護師国家資格取得率 99%(637名中630名) 1. 2年から「人体の構造と機能」について課外学習でフォローし学力強化に取り組んでいる。		
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	3	卒業生の現況調査を継続実施している。実習施設に就職した卒業生については、実習巡回時に現況確認を行い、必要時は病院と連携し卒業生のフォローを行っている。卒業生の中には認定看護師や副師長としてキャリアアップしている者もいる。一方で近年は職場の環境適応がきかないまま早期離職する卒業生の報告も増えているため、就職先との連携や就職後のフォローも検討していく必要がある。			

学校法人 大阪滋慶学園 大阪医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による評価

【令和5年6月1日実施】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	
5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	本校は単科の小規模校のためキャリアセンター室は設置はないが、その機能を次長、副学長、学科長で役割分担し就職指導を行っている。求人情報は図書館で閲覧できる。	学園全体で就職フェアの実施している。	3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単科の教育課程の良さがあり、個別対応で学生を支援している、学生の自主組織としてのICT委員会の立ち上げは大変評価できる</li> <li>・今後、留学生に対する整備に力を入れて頂けると良いと思う</li> <li>・5-17-1 看護学を学び始めて、合わない学生もおられるので、3%前後の退学率は仕方ないと思う</li> <li>・5-19-4 課外活動は学生の主体性を尊重しておられることが素晴らしいと感じた</li> <li>・ICT委員会 自主性が養われて良いと思う</li> </ul>
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	3	退学となる主な理由として、学生自身の進路変更、体調不良、意欲低下等があげられ、近年は新たに環境に適応できないという学生が増加する傾向にある。割合としては1年生の退学者が多いため、早期から生活習慣・学習習慣を確立し、看護学生として環境適応できるよう保護者とも連携しながら関わっている。	学生気質の多様化、退学理由の複雑化に対応できるよう、相談は担任、メンタル・休学に関わる内容は学科長が面談しケアリングしている。毎年、年度当初に「学生サポートアンケート」を実施し面談資料に活用している。		
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	4	学生相談室については、保護者を含め、入学前の学校説明会から告知し、入学後のオリエンテーション時に相談室の利用方法と内容を説明している。精神的な問題を抱える学生でもスムーズに学生面談できるようにしている。	新大阪駅前の姉妹校の横にSSC(学生サポートセンター)を設置しており、希望する学生が活用している。		
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	3	開校以来、留学生は入学していない。			
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	入学前の学校説明会から対応し、入学時から卒業までを見据えた支援を行っている。内容は日本学生支援機構の奨学金、及び学費の分納対応である。在校生の約50%がこの制度を利用している。奨学金に関しては、学内に事務担当者を配置し、奨学金相談と手続きの窓口となっている。	奨学金について保護者会の場で保護者にも発信している。		
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4	定期健康診断を例年4月上旬に実施している。令和4年度も健診受診率は100%である。グループ企業の「慶生会クリニック」で精査可能。再受診が必要な学生は、クラス担任がフォローアップしている	感染予防対策として、手指消毒、毎朝の検温、実習前2週間の行動履歴を取り健康管理している。		
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	4	生活環境の支援策として生活アドバイザーの設置や健康管理支援サービス(慶生会クリニック連携)を行ない、指定寮以外で一人暮らしをする学生には、アパートや不動産仲介業者の紹介を実施している。その他、全学生への緊急時安否確認メールシステムを導入している。	特になし。		
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3	行事委員が中心となり、学生交流会やスポーツ大会等の各種イベントを実施している。	令和3年度より学生の自治組織として感染対策委員会が、令和4年度からはICT委員会が立ち上げられ、令和5年度より行事委員が立ち上げられた。教員はオブザーバーとして参加している。(行事等では学校からの金銭的支援あり)		
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	4	保護者への連絡を密にすることを重視している。 1・2・3学年 4～6月に各学年毎の「保護者懇談会」を実施し、教育理念、教育指導要領、年間予定、学修状況、就職状況等について説明を行っている。 1年生:3年間の学習計画、履修規程、国家試験について、2年生:就職試験、国家試験について、3年生:国家試験について 全体説明会と個別面談の2部構成されており、個別面談は保護者の希望、成績低迷者を対象に行っている。	個別面談では成績が可視化できる資料を作成し面談を行っている。		
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	3	国家試験不合格者に対して、フォロープログラムを作成し合格まで実践している。図書館等の施設は希望があれば利用可能である。	就職前教育として、実習病院看護部長から業界が新卒採用者に求める人材像についての講演、卒業生とのQ&A、就職後のメンタルヘルスケア、お金の管理の講演を実施している。		
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	3	本校独自の研究会活動を行うと共に、法人の滋慶医療経営管理研究センターや滋慶医療科学大学大学院が主催する業界セミナー等を卒業生に案内し、姉妹校と連携して卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいる。				

学校法人 大阪滋慶学園 大阪医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による評価

【令和5年6月1日実施】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	
6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4	2020年度よりICTを推進。厚生労働省から指定されている施設・設備・教育用具等は整備されており、専門職として技術を磨くための設備や機器も完備している。またPCルームや図書室も整備しており、学生の学習意欲を喚起している。 <主な実習室> メディアセンター、在宅看護実習室、図書室、母子看護実習室、看護実習室等、体育館等 学生に分かりやすいように学生便覧に配置図を掲載し、その位置を把握させている。	2020年5月からコロナ禍においてオンライン授業可能な環境を整備。2021年4月から電子テキストとしiPad導入、電子黒板を設置。moodieとteams導入。2022年4月電子カルテ教材導入。	3.3	・IT技術を教育に活用して、様々な取り組みをしているのは学生にとって、大変有効である 防災体制、安全管理体制の整備については課題解決に向けて、さらなる検討をして頂きたい ・時代の流れに沿って最先端を取り入れていて良い
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	臨地実習は教育効果を考慮した施設選定に留意している。今年度から新カリにおいて新たに地域医療連携室、地域包括ケア病棟、地域包括支援センター、居宅介護支援センターなど地域に向けた実習場が加わった。 海外医療制度や政策の相違、医療サービスの現状等について、コロナ禍の為、海外の教育提携校とのオンライン講義にて、学習をおこなった。	「異文化コミュニケーション」という科目内で実施している海外研修では、コロナ禍において、代替として海外提携大学とのオンライン講義をおこなった。海外に行ける目途が立つまではオンライン授業の内容充実が課題である。		
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3	防災マニュアルを作成し、教職員には周知徹底している。また、学生含め本校関係者全員に防災マニュアルブックを作成し、配布している。 防災訓練は毎年実施するとともに、防災設備の定期検査や緊急連絡網の整備も行なっている。	今後、大規模災害を想定した場合、隣接する大阪刀根山医療センターと共同での訓練等も検討しなければならない。また、備蓄する物品の購入や保管等についても、環境を整える必要があると考える。更に刀根山地域の連携機会についても主体的に参画したい。		
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	校舎管理や防災規程に基づき、全教職員で管理体制を整えている。	避難経路や非常(屋外)階段、AED設置箇所や駐輪場の拡大等、その管理体制をもう一度確認し、不備の点があれば整備したい。新館で火災が発生した場合の対策が課題である。		
7 学生の募集と受入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4	広報担当者や教員が、定期的に高校訪問を行い、看護師養成に関連する業界動向や教育情報の提供を行っている。このような取り組みを通して、出身校との信頼関係作りにも努めている。	在校生、卒業生の高等学校への報告は非常に好評である。今後は本校の認知度向上や国家試験結果、就職状況の情報を報告をするため、高校教員を対象としたセミナーを開催する等、効果的に高校教員へアプローチを掛けていく。	4	・適正に実施されている
	7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	4	学生募集活動をキャリア教育の一貫として位置付け、教育実績や就職状況に裏づけされた学生募集活動を広報計画を策定し、スケジュールに基づいて実施している。募集要項は入学試験や学費等について明記し、正しい情報提供として入学希望者へ無料配布している。	高校1・2年生の頃から看護師の職種理解・職域について、ツールを用いてキャリアガイダンスを実施している。看護師を志す生徒や保護者に対して、業界情報や実際の学修動画等、ホームページ上での情報提供のあり方についてさらに改善を重ねたい。		
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適正に運用しているか	4	学則並びに規程に基づき、各回の選考日の2～3日後に会議規程のメンバーで判定会議を開催し、合否判定については合否基準に則って確定している。	特に無し。		
	7-26-1 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	広報担当者と学科教員で入学前に合格者の学習環境や学力データを分析し、過去のデータと比較して、入学後の授業展開方法や個別のフォローのあり方を毎年検討し、改善している。	全入学内定者に入学前教育を実施しているが、学習習慣が未定着の学生や学力が低い学生へのサポートが課題である。国語基礎対策(文章を読む技術・文章を書く技術)、および生物基礎対策(人体:細胞、構造と働き)について学習支援を実施し、専門学習への導入を行っている。		
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4	学納金は、事業計画の中で収支計画をたて、理事会の承認を経て決定している。 入学予定者に関しては、入学金・授業料・実習費・設備費について、募集要項やホームページに記載している。また毎年、教材費などの諸費用に関しては無駄がないか精査、改善を図っている。	ICT教育に即した学習環境(wi-Fi)等を整えるために、諸経費から情報教育費を充てている。		
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適切な取扱を行っているか	4	募集要項には、入学辞退に関する手続きをわかりやすく記載している。	本来であれば「専願」で受験し、合格した者が辞退することは無いはずであるが、入学試験の種別、取り決めに関わらず、自己都合で入学辞退する学生も存在する。			

学校法人 大阪滋慶学園 大阪医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による評価

【令和5年6月1日実施】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	負債の総資産に対する割合が基準を満たしている。債務超過になっていない。借入金償還額が帰属収入割合をクリアしている。	経費の見直しや収入の増加によって現金預金を増加させ、総資産を増やすように努力していく。	4	・適正に運営されている
	8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4	主要な財務比率を算出して経年比較をしている。	今後も5か年の予測を立てて、収支改善に努力していく。		
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	毎年の事業計画に基いて予算執行を行なっている。	中期計画は多少の変更が生じるため、毎年の事業計画によってその変更を予算に入れ込んでいく必要がある。		
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4	毎年の事業計画に基いて予算執行を行なっている。	特になし		
	8-30-1 私立学校法及び寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4	定期的に監事のヒアリングを受け、決算日後に公認会計士と監事の会計監査を受けている。	特になし		
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	財務情報を知りたい利害関係者のために閲覧体制を整えていると同時に、HPでも公開している。	特になし		
9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	学園では、コンプライアンスの推進に関する基本方針の策定、教職員に対する啓発及び教育・研修、コンプライアンス上の疑問や問題・法令違反懸念等の通報に対するの対応を行なっている。毎年 養成施設報告、学校基礎調査、学校基本調査にて報告をおこなっている。	学校運営を進めていく上で、法令については一つの過失で社会的信頼を失うことになるため、今後も教職員の研修に力を入れていく必要がある。学園ならびに本校においてもコンプライアンスの推進に関する教職員に対する啓発及び教育・研修を継続して実施していく。	4	・適正である
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	学生便覧には個人情報の取り扱いについて明記し、オリエンテーション時には学生に説明している。また学内には個人情報保護委員会を設置し、その取り扱いについても詳細に取り決めている。 <個人情報保護委員会> 委員長は、個人情報管理責任者(学校役員) 委員は、個人情報取扱責任者、個人情報実務担当者 各種マニュアルの整備、職員教育、問合せ・苦情受付等 その他、セキュリティー面も強化してTRUSTeによる認証を受けている。	個人情報保護委員会の設置に伴い、学園グループで設置しているコンピュータ委員会でIT・リテラシーガイドラインを作成し、ITを利用する上でのモラルやマナーの体得に向けて全教職員が学習している。これらを基に学生は、情報科学系の授業にて正しいIT・リテラシー教育を受けている。JPAC(一般社団法人日本プライバシー認証機構)の研修を受講している。		
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4	職業実践専門課程の申請もあり、法人として共通の項目で自己点検・自己評価を実施している。2021年度は私立専門学校等学校評価研究機構(以下機構)に加盟し、第三者評価を受けた。	私立専門学校等学校評価研究機構の第三者評価を受審し、適正と判定頂いている。		
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか	4	学校関係者評価委員会でも使用するフォーマットで公表している。	法人内の各校と共通の項目で実施しており、その公表スタイルもホームページに「情報公開」のタグを設置して、法人内で統一している。		
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4	評価内容や現状、次年度重点課題設定等の妥当性について評価をいただいている。	中長期ビジョンに立った学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の運営、学校改善の方向性を見出していく必要がある。		
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	4	法人共通のフォーマットで行っている。ホームページ上で結果を公開している。			
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	看護師国家試験を受験した結果(受験者数や合格者数、合格率)や就職内定率などは在校生保護者会や入学案内等でも公開しており、ホームページ上では職業実践専門課程の規定通り、公表している。	情報公開の形式、手段等は法人内の各校で合わせている。 (学校の概要・目標及び計画、学科教育、教職員、キャリア教育・実践的職業教育、教育活動・教育環境、学生の生活支援、学生納付金・修学支援、学校の財務、学校評価、国際連携の状況、その他)			

# 学校法人 大阪滋慶学園 大阪医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による評価

【令和5年6月1日実施】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	
1 0 社会 貢献 ・ 地域 貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	本校の教室や体育館を近隣の刀根山高校などに開放するなど、校舎・設備の開放は依頼があれば積極的に行なっている。	館内施設や設備を大阪刀根山医療センターをはじめ、地域の保育園や幼稚園、企業、各種団体へ開放し、今後も積極的に住民の方々との交流を図っていきたい。	3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎、設備の開放は近隣の学校や団体の活動に大いに資するものとなっており、貴学の社会貢献、地域貢献は多大なものである 今後もこの取り組みをいっそうすすめて頂ければ地域からの評価も大いに上昇すると思う</li> <li>・コロナ禍の状況においても、可能な範囲で、国際交流を学生が体験できるよう配慮されている</li> <li>・本年度からの国際交流を期待している</li> <li>・海外研修での経験は一生の思い出、経験となるので、早く再開できるようになれば良いと思う</li> </ul>
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	3	令和3年、4年度はコロナ禍で、現地での海外研修できずオンラインでの海外提携校との研修を実施した。	コロナ禍で直接海外で学ぶ機会及び、海外からの学生や教職員の受け入れは実施できなかったが、オンラインで学生交流を行え、アメリカの学生の学習やキャリアに対する姿勢を知り良い刺激となっていた。 今年度はアメリカの学生の活動と考え方を学ばせることを目的に、2年生もオンライン聴講を計画。		
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4	コロナ禍で地域活動への参画がなかなか進まなかったが令和4年10月に豊中地区で行われた「いきてゆくフェス」に数名の学生が参加した。本年度は「いきてゆくフェス」に行事委員が中心となり運営会議から参加し、10月29日(日)当日は1、2年生が参画することを支援。			

2023年度 学校関係者評価委員会		
開催日時	2023年6月1日(木) 16時00分 ～ 17時30分	
開催場所	大阪医療看護専門学校 新館 201教室	
出席者	事務局	委員
	橋本 勝信 (学校長)	大崎 和子 (業界代表:社会医療法人 きつこう会 多根総合病院 看護部長)
	岡田 千鶴 (副学校長・学校長代理)	藤井 照代 (業界代表:公益社団法人 大阪府看護協会 教育研修部 部長)
	澤本 万紀子(副学校長)	無津呂 弘之 (高校代表:大阪府立 刀根山高等学校 校長)
	鬼頭 浩美 (学科長)	浦野 千恵子 (地域代表:社会福祉法人心音会 刀根山こころこども園 園長)
	逸見 晃二 (事務局次長)	武田 美里 (卒業生代表:国立研究開発法人国立循環器病研究センター 看護師)
		大西 千鶴 (保護者代表:本校3年学生 保護者)